

平成28年度あきた型学校評価

(1)豊かな教育のある学校の実現

評価領域	豊かな教育
------	-------

重点目標	地域との協同で豊かな教育のある学校を実現する。		P
現状	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題にキャリア教育の視点を取り入れた研究に昨年に続き取り組んでいる。 交流及び共同学習を通して、児童生徒が幅広い体験を積み、社会性を養い、豊かな人間性を育て、多様性を尊重する基盤の構築を図っている。 授業づくりの基盤となる「個別の指導計画」の作成・運用の手順など、学校のシステムが分かるようにマニュアルを作成している。 外部専門家の活用を図り、自立活動の指導の充実を図ってきたが、「個別の指導計画」のPDCAサイクルをつながりのあるものまでには至っていない。 昨年度実施の職員アンケート中「小・中・高を貫く授業改善」について、10%が「あまりそう思わない」と回答している。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 学部間をつなぐ仕組みを活用した授業づくり、授業改善に生かす。 児童生徒の自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点で小中高を貫く教育課程の改善を行う。 高等部で専門学科のある高等学校と実習・販売等で連携する。 ICTの活用により、障害に応じた学びの拡充を図る。 自立活動における外部専門家の支援を活かした授業改善を行う。 研究授業や研修を行い、教師の指導力や専門性の向上を図る。 自立活動の指導を充実させるための「レシピブック」の作成により、指導の実際に関する情報発信を行う。 職員アンケートの「小・中・高を貫く授業改善」項目で、「あまりそう思わない」という回答を10%以下にする。 		
目標達成のための方策	次を実施し、学部間をつなぐシステムを生かした授業改善に取り組む。 ①教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場を確保する。 ②連携校や関係機関との密接な連携の下、特別支援教育に関する実践研究充実事業を遂行する。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けて、居住地校交流や同世代との交流及び共同学習を計画的に実施し、学習活動の広がりを図ってきた。 外部専門家の助言や校内研修を授業実践に取り入れた。 		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育全体計画を活用した学びの連続性のシステムを構築することができた。 目標としたアンケート項目の回答は0%であった。 		D
自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 地域における交流及び共同学習と学部間交流は、新たな取組に挑戦することができ、内容の充実化が図られた。 キャリア教育の充実は今後も日々の授業実践で重点的に取り組む必要性を全職員で確認した。 	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> 地域との取組は地域に根ざした学校と評価できる。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 学部間をつなぐシステムを構築したことで、小・中・高を貫く教育課程の改善につなげることができた。今後は、教育課程の可視化の視点から、教科等間の相互の関連を図った授業改善につなげていく。 		A

(2)豊かな地域生活への支援

評価領域	地域支援・地域交流
------	-----------

重点目標	地域の教育資源を活用し、地域との協同で、地域における生活をより豊かにしていく。	P
------	---	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつりが、学校と地域の架け橋に大きな役割を果たしている。さらに地域の活用を積極的に推進していく必要がある。 ・出前授業やミニ学校展の開催により、学校間・居住地校交流の充実を図っている。 ・ボランティア養成講座を他障害種の特別支援学校と協働で実施したことで、講座内容の充実が図られ、受講者数の増加が得られている。 ・昨年度実施の保護者アンケートの「学校の教育活動に関する保護者への積極的な情報提供」について、約13%が「あまりそう思わない」と回答している。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回みどりっこ夏まつりを教育課程に位置づけ、開催する。 ・出前授業、ボランティア養成講座、花いっぱいプロジェクト、地域清掃活動等の地域貢献活動を充実させる。 ・地域余暇活動へ参加し、児童生徒の卒業後の地域での生活が豊かになるよう地域とのつながりを強める。 ・HP、進路・研究・地域支援等のたよりで成果を積極的に発信する。 ・保護者アンケートの「学校の教育活動に関する保護者への積極的な情報提供」項目で、「あまりそう思わない」という回答を10%以下にする。
--------	---

目標達成のための方策	<p>次を実施し、児童生徒の地域生活を豊かにする活動に取り組む。</p> <p>①関係機関や地域のアイデアを取り入れながら、夏まつりの開催に向けた準備を進める。</p> <p>③保護者にホームページ、地域支援、進路等の便りで、学校の情報発信と迅速な情報更新を進めていく。</p>
------------	---

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の得意分野を生かしながら、地域資源を有効に活用した地域貢献活動を実施した。 ・総務部、進路指導部の協同による新規事業に取り組み、保護者が参画できる地域における余暇活動の充実を図った。 	D
----------	---	---

達成状況	目標としたアンケート項目の回答は1.8%であった。
------	---------------------------

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の工夫により、学校の教育活動が「地域との協同」を意識して進められていることを、地域や保護者に周知できた。 	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりっこ夏まつりが年々地域に根ざしている実感がある。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づき改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での余暇活動の充実化は、関係機関に働き掛けながら積極的に工夫しながら進めていく必要がある。 ・おやじの会を中心としたPTA活動の推進が一層求められる。 	A
----------------------	---	---

(3) 県総合教育センターとの連携の推進

評価領域

教育センターとの連携

重点目標	県総合教育センターとの連携を相互に推進し、さらなる充実を図る。		P
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・センター指導主事による各学部の授業づくりや部活動への参画と助言により、授業改善と研修員の授業力向上に取り組んでいる。 ・計画的に教育センター研修講座の現地研修の場を提供し、特別支援教育の理解推進に努めている。 ・作業学習の成果や、職員の技能を生かした新たな連携事業に挑戦している。 ・センターの施設利用についてはセンターからの特段の配慮があり、効果的な活用と日常的交流の充実化が図られている。 ・合同の避難訓練を継続実施している。 ・昨年度実施の職員アンケートの「センター指導主事の指導を得ての授業づくりの常態化」について、15%が「あまりそう思わない」と回答している。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターと連携した授業づくりの常態化と研究成果を県内外へ発信する。 ・教育センターの施設利用と日常的な交流推進に努める。 ・教育センター研修員の授業力向上研修の推進に努める。 ・職員アンケートの「センター指導主事の指導を得ての授業づくりの常態化」項目で、「あまりそう思わない」という回答を10%以下にする。 		
目標達成のための方策	次を実施し、教育センターとの連携強化に取り組む。 ①教育センター職員への障害理解研修の場を提供していく。 ②センター研修員の研修を活用した教員の指導力向上に関する取組を常態化していく。 ③連携事業がセンターにとってもメリットのある取組を進めていく。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・センター研修員の研修を媒体にして、センター指導主事の協力の下、授業改善に取り組んだ。 ・計画的に教育センター研修講座の現地研修の場を提供し、障害理解教育を推進した。 		
達成状況	目標としたアンケート項目の回答は12.3%であった。 ・センター指導主事と研修員による各学部の授業づくりへの参画により、授業改善を図ることができた。		D
自己評価	(評価) B	(根拠) ・センター指導主事、研修員による授業評価により、日常の授業改善に結び付けることができた。	C
↑ 評価基準 ↓			
A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・センターとの連携事業の成果に関する情報発信を積極的に行ってほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・センターの教育資源活用という観点から再度検討し、児童生徒の学習活動を媒体とした常態化可能なシステムを導入し、授業改善を一層進めていく必要がある。		A

(4) 安全安心と健康な生活の確立

評価領域	安全安心・健康な生活
------	------------

重点目標	安全安心と健康な生活を確立する。		P
現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画に基づき、保健指導、防災教育等を計画的に実施したことで、児童生徒、教職員の防災意識の向上が見られた。 総合型避難訓練を計画・実施するとともに、学校安全計画の見直しを行っている。 安全対策については、事故や怪我などが起きた場合の要因等を迅速に分析して再発防止に努める必要がある。 地域や関係機関との合同の避難訓練を実施し、福祉避難所としての機能をもたせていく取組を実施する必要がある。 昨年度実施の保護者アンケートの「学校の登下校時の安全指導、緊急時対応の強化」について、15.2%が「あまりそう思わない」と回答している。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 学部・分掌部を機能させ、学校安全計画を日々の授業の中で計画的に実践できるようにする。 防災や感染予防等、安全安心に関するマニュアルをその都度見直し、研修を実施し周知徹底を図る。 様々な形の避難訓練等を実施し、一人一人が緊急時に対応できるよう連絡の徹底を図る。特に潟上地区固有の脆弱性に着目して、より実効性のある訓練を行い、児童生徒の危機回避能力を高めていく。 児童生徒の健康状態の把握と健康の保持増進に努め、基本的な生活習慣に関する指導を保護者と協同で推進する。 保護者アンケートの「学校の登下校時の安全指導、緊急時対応の強化」項目で「あまりそう思わない」という回答を10%以下にする。 		
目標達成のための方策	次を実施し、児童生徒の安全安心と健康的な生活づくりに取り組む。 ①教職員の危機管理意識を高める研修と児童生徒の発達段階を踏まえた安全配慮の徹底を図る。 ②地域と連携した避難訓練の計画・実施を検討する。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画に基づき、保健指導、防災教育等を計画的に実施し、マニュアル等を見直しを行った。 総合型避難訓練等を実施し、校内救急体制づくりと事故発生時の状況に応じた適切な措置を行った。 		D
達成状況	目標としたアンケート項目の回答は6.5%であった。 ・学校安全計画に基づき、保健指導、防災教育等を計画的に実施し、学校事故や感染症に罹患する児童生徒の数が減った。		
自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 学校安全委員会を早期に開催し、教職員の危機管理意識を図ることができた。 総合型防災訓練を通して、地域や関係機関と連携した学校安全計画の作成と実施に関する見直しが急務であることを確認することができた。 	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) <ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画について、「地域と協働」という視点で計画的に実施・評価して欲しい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所としての緊急時対応訓練を、地域や関係機関と緊密に連携して、早期に実施する。 安全対策については、職員の危機管理能力を高めるシステムを再度点検し、事故の再発防止に努める。 		

(5)教育プランの実践

評価領域	教育プラン
------	-------

重点目標	教育プランを実践する。(4年/5年)		P
現 状	・第二次秋田県特別支援教育総合整備計画に基づく、教育プラン(5年後の目指す姿)が4年目となる。		
具体的な目標	<input type="checkbox"/> 地域の教育資源の活用 ※地域とつながる交流及び共同学習、居住地校交流(小)、社会貢献活動(中)、高等学校との連携(高)、学びのある青年学級、小・中・高を貫くキャリア教育 <input type="checkbox"/> 地域の教育活動への参画 ※出前授業・ボランティア養成講座(養成から活用へ)の拡充、PTA活動の活性化、学校後援会の充実、わくわくサークル(青年学級)の発展、花いっぱいプロジェクトの継続、部活動の充実 <input type="checkbox"/> 総合教育センターや地域との連携 ※授業づくり、理解啓発、施設利活用と日常的な交流、地域の学校・教育委員会との連携、ミニ学校展・作品展の充実 <input type="checkbox"/> 県内外への「授業」の提案 ※HPの活用、自立活動部の情報提供、授業改善の常態化(発信) <input type="checkbox"/> 目指す学校像 ※あいさつのある学校、きれいな学校、読書活動を大切にする学校 健やかな体を育む学校		
目標達成のための方策	・学校評価で進捗状況を確認・共通理解し、主事会・運営委員会・職員会議と学部会・運営委員会と連動させる。 ・全職員で具体的な目標を共通理解しながら手立てを明確にし、目標達成に向けて教育プランの内容を分かりやすく整理する。		
具体的な取組状況	・各目標達成に向け、学部・分掌で進めている。学校評価(年度末)の課題について、全職員に確認をする。		
達成状況	・教育プランと連動する今年度の重点事項を受け、各学部・分掌において共通理解を図った上で様々な教育活動を展開した。 ・地域との「教育資源の活用」「教育活動の参画」においては、関係者が連携しながら積極的に活動を展開した。		D
自己評価	(評価) B	(根拠) ・教育プランに対する取組は、これまでの実績を元に新たな活動に展開することができた。ただ、一部内容については、教職員の共通理解が進まないまま経過してしまった。	C
↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・学校の教育目標達成を意識して、教育プランに係る関係資料を分かりやすく整理するとよい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・教育プランのまとめの次年度を見据え、多様な内容から実践につなげるために、教育プランの目指す方向や具体的な取組を職員で共通理解を図っていく。また、各施策の進捗状況を確認しながら達成に向けて着実に推進していく。		A